

# 第38回

# うつのみやこども賞だより

## 令和3年度 1回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

### 《今月選ばれた本》

## 『ルヴニール』

春間 美幸／著 (小学館)

### ～読んだ本の感想より～



令和3年6月6日

- 「オンチでなにが悪い。歌ってやるーっ。」ということに、私はとてもきょうかんしました。
- スズメさんはどうしてヒヨコさんが心で言ったことまで分かるのかなと思いました。
- ヒヨコが、歌が得意なロボットをごみすて場で見つけて、曲をおぼえさせて歌ってもらうと、1回でかんぺきに歌えていて、すごいなと思った。
- 最後、すずめが「ルヴニール…」と言いながら鳥たちと行ってしまったのがすごく感動し、ヒヨコがルヴニールのいみを分かったとき、またまたすごく感動した。
- 題名になっている「ルヴニール」とはどういう意味だろうというのが最初の疑問でした。その意味は、最後に音楽用語で「再び戻る」ということだと知り、感動しました。

### 『ライラックのワンピース』

小川雅子／作 (ポプラ社)

- 主人公は、自分の秘密をかくそうとしますが、その秘密はかくす必要がないと気づいたので、良かったです。
- うまく言葉にできない大切な思いについて考えさせられるような作品だった。
- 主人公の感じた、ドキドキしたかんじやワンピースが完成した、うれしい気持ちがつたわってきた。
- おじいちゃんがたおれたり、サッカーの試合を休んでワンピースを直したりしていたときはどうなるのかと思ったけど、おじいちゃんが元気になって、サッカーもまた楽しくやりはじめられてよかった。
- トモの家族、特に、おじいちゃんおばあちゃんのお話が少し感動し、ほっこりとした気持ちになった。

### 『つなげ！アヒルのバトン』

麦野圭／作 (文研出版)

- アヒル先生のむすめさんへの思いや、先生の持ち物の一輪車やバトンにかいてあるアヒルの意味が分かって感動した。
- 親友や仲間とがんばって練習したことが運動会やイベントなどでいなしになっても、がんばったことはとてもかちがあるということに気づけて感動しました。
- いままでまったくきょうみがなかった、一輪車。しかし、一輪車を必死にがんばる主人公から、あきらめない気持ちが伝わった。
- 一輪車のバトンをみんなでつなげてよかったなとおもった。

### 『精霊人、はじめました！』

宮下恵菜／作 (PHP研究所)

- 精霊と話すのは少し勇気が必要かもしれないが、話したらとても楽しそうだなと思いました。
- せいれいといえば、やさしくて、きれいなイメージがあるけど、わがままなところもあって面白かった。
- 儀式を自分でやるなんてぼくにはできないから、すごかった。
- 精霊が見えたらとてもたのしいだろうなと思いました。精霊や民族などのことがでてきて、とてもおもしろかったです。